

「インスタの4番」は後輩思い

夏輝く

チームでは頼れる3番。学校では「インスタの4番」。米沢東の楨悠太主将(3年)は、そう自負している。高校の公式インスタグラムに、練習の様子を積極的に投稿してきた。男子の部員は17人。1、2年生は10人と多い。「下級生の頑張りを知ってもらいたいと思ったのです」

大会の目標は「2勝」。

これまでの3年間、夏はすべて1勝にとどまっていた。「みんなで一丸となって、壁を破る」。開幕試合の創学館戦で、熱い気持ちを持ってバットに込めた。

米沢東・楨悠太主将

一回、ライト前にチーム初安打。四回はセンタ―前へ安打を放ち、ベンチを元気づけた。

7―11と、驚異の追い上げを見せた。「ベンチのだけれども、あきらめていませんでした」

五回表の時点で、スコアは0―11。コールド負けのピンチを迎えたが、その裏の反撃が見事だった。佐々木愛瑠選手(3年)の2点適時打と自身の犠牲フライなどで4得点。六回も3点を加えた。

最後は力尽きたが、表情は晴れやか。「食らいついて、粘りを出して、いい試合ができました。後輩たちに感謝しています」。悔し涙のなかに、うれし涙がまじっていた。

